

2-2 ● 1要因の分散分析(被験者内計画)

6名の実験協力者に対してミュラー・リヤーの錯視実験を行った。矢羽の角度を30度、60度、90度、120度とした4つの条件を設け、6名の実験協力者はくり返し4つの条件の試行を行った。実験では、2つの図形の線分の長さが等しいと判断した際の、2つの線分の長さの差を測定した。

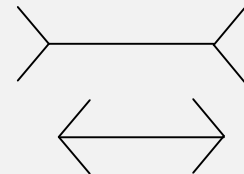
角度によって錯視量に差があるかどうか、差があるかとすればどこにあるかを検定したい。

被験者	角度			
	30度	60度	90度	120度
1	43	38	35	32
2	23	20	14	9
3	37	33	26	26
4	33	29	21	19
5	42	33	27	20
6	35	30	22	24

<ミュラー・リヤーの錯視実験>

右のような2つの線分のうち一方を操作して、同じ長さに見えたところで、実際の長さとの間にどの程度のずれが生じているのかを測定する。

一般的には、矢羽（線分の両端にある線分）が長いほど、そして矢羽の角度が小さいほど錯視量が大きくなる。



■データの型の指定と入力

- SPSS データエディタの [変数ビュー] を開く。
 - 1 番目の変数の名前に **被験者**，2 番目以降の変数の名前に **r30, r60, r90, r120** と入力。